

長崎の林業

小曾根星堂書



南島原市 みんなの森守協議会 秋の森林体験学習

12

目次

- 林政だより 新たな森林管理システムが始まっています！
～森林経営管理法の施行～…………… 2～3
- 特集記事 企業の森 長崎につしようかん
営業統括支配人 畠山弘樹さん…………… 4～5
- 林業普及だより 特用林産物ハランについての取組み～…………… 6
- 地方だより・島原 秋の森林環境体験学習（南島原市）…………… 7
- 地方だより・対馬 鶏知中学校総合学習「対馬の未来を考える」…………… 8
- 林業団体情報 令和元年度 高校生等の林業就業促進支援事業
林業の仕事でもいいかな ～Part1～…………… 9
- センターだより 林業の時間軸を変える特定母樹！…………… 10
- 紹介コーナー Viriditas/ヴィリディタス…………… 11
- 「秋の緑の募金活動」 in Lovefes(ラブフェス) 2019…………… 12



2019
No.771

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

新たな森林管理システムが始まっています！ ～森林経営管理法の施行～

新たな森林管理システムがスタート

平成31年4月に森林経営管理法が施行され、適切な管理が行われていない森林については、市町が主体となって適正な森林管理を進めていく新たな仕組み『森林経営管理制度』（新たな森林管理システム）が始まりました。

森林経営管理法の概要

森林経営管理法では、森林所有者に適切な管理（伐採、造林及び保育）を実施する責務を明確化したうえで、森林所有者が自ら経営管理ができない森林については、市町が森林所有者から経営管理の委託を受け、

①林業経営に適した森林は、「意欲と能力のある林業経営体」に再委託することを基本としています。

②再委託できない（経営に適さない）森林は、市町が公的管理を行うこととされています。

森林経営管理制度の流れ

まず、市町が森林所有者に対し森林をどのように経営管理したいか意向を確認します。森林所有者が市町に自主的に管理委託を申し出る（希望する）ことも可能で、市町が森林の状況等を確認し検討したうえで、経営管理のための手続きを進めます。

市町の事務手続きとしては、委託を受けた森林について、経営管理権を設定、経営管理権集積計画（案）を作成、計画の公告を行います。

このうち林業経営に適した森林については、「意欲と能力のある林業経営体」に経営管理を再委託します。

また、林業経営に適さない森林は、市町が直接管理を行います。

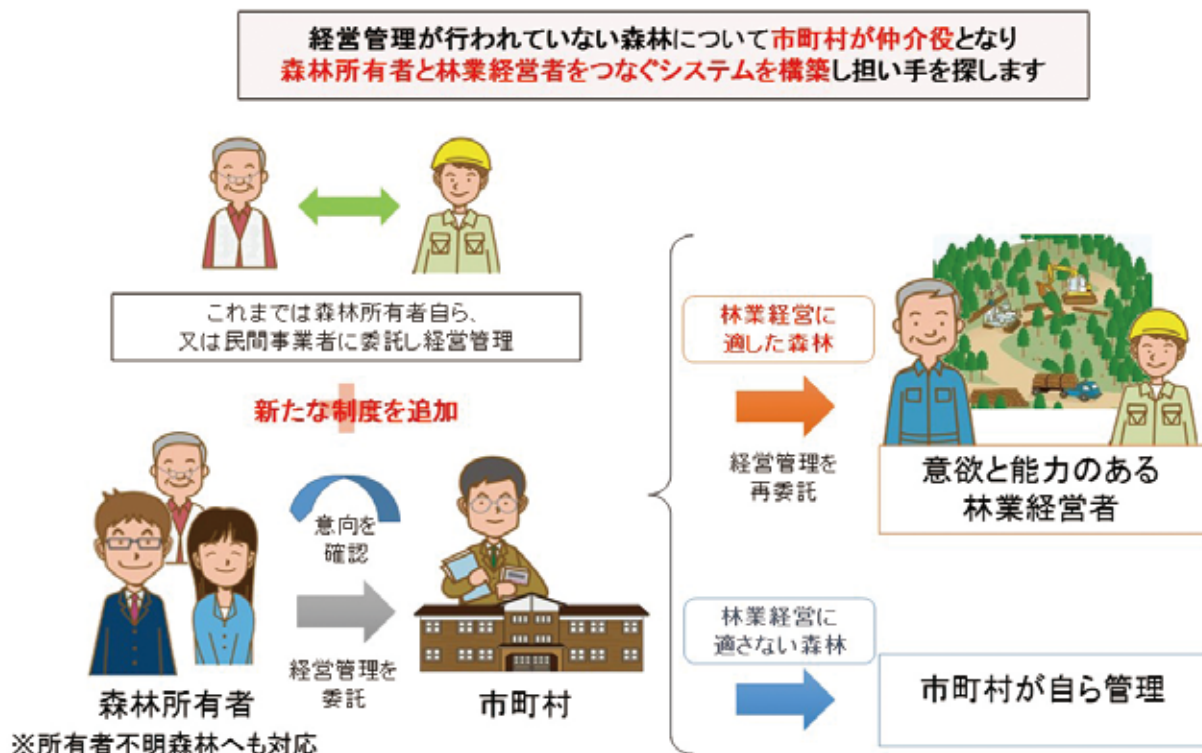


図 新たな森林管理システムの仕組み

県内の体制整備に向けて

新たな森林管理システムは、市町が主体となる新しい取組みです。この取組みを進めていくには、市町や林業関係者の皆さんに本システムの目的をご理解いただき、各地域での取組みにつなげていただくことが重要です。

そこで、令和元年7月17日に県庁で研修会を開催しました。この研修会には、69名の市町並びに林業関係者の参加があり、意向調査や計画書作成の演習のほか、本システムを実施していくうえでの課題等についての意見交換が行われました。



新たな森林管理システムQ&A

Q. どんな森林が対象になるのですか？

A. 県、市町、林業公社や生産森林組合が管理している森林及び森林経営計画が作成されている森林は対象外で、「経営管理が行われていない私有林の人工林」が基本的には対象です。

Q. 経営管理権とはどんなものですか？

A. 森林所有者から市町が委託を受けて、市町が立木の伐採や木材の販売、造林並びに保育を実施するための権利で、森林所有者から所有権を奪うものではありません。

Q. 経営管理権集積計画ってどんなもの？

A. 市町は、委託を受けた森林が市町への集積が必要かつ適当と認められる場合は、

集積が可能なところから随時、計画を作成することになります。

なお、森林所有者が植栽すべきである伐採跡地や、現状のままでも特段手入れを必要としない天然林などについては、経営管理権集積計画の対象に含めることは想定していません。

Q. 境界が確定していなければ、経営管理権は設定されないのですか？

A. ある程度まとまりのある一団の森林について、その中の森林の関係権利者が同意していれば、個々の森林の境界は不明であっても一団の森林の外側を明確化することで、経営管理権を設定することが可能となると考えられます。

新たな森林管理システムへの期待

本システムが推進されることで、これまで、既存の施策では対応が困難であった森林の整備が進むことにより、地球温暖化防止や土砂災害防止などの森林の公益的機能の維持増進に寄与することが期待されます。さらに、木材の有効活用を通して林業の持続的発展も期待されます。

今後の取組みに向けて

今後、県内で取組みが進んでいくなかで新たな課題もでてくると思われます。森林を適正に管理していくことは、地域住民にとっても大切なことですので、引き続き市町と県が連携し、森林整備につなげていきたいと考えています。

本システムについてのお問い合わせは、市町の林務担当課、または県の各振興局林業担当課及び県庁林政課森林管理班（095-895-2984）にお願いします。

(林政課 森林管理班)

【特集記事】

企業の森 長崎につしょうかん 営業統括支配人 畠山弘樹さん

企業の森で活躍しているホテルマネジメントインターナショナル株式会社
長崎につしょうかんの営業統括支配人 畠山弘樹さんをご紹介します。
(写真場所：HMI 長崎につしょうかん しおかぜ香るおもてなしの森)

森と海を育む 企業の森づくり

「森と海を育む 企業の森づくり」は手入れが遅れている森林等を企業、森林所有者、長崎県との協定に基づいて、社員や地域住民等が協力しながら手入れを行ったり、企業が森林組合等に整備を委託するなどして、森を育てていくことです。

地球温暖化や大気汚染といった地球規模の環境問題への関心が高まる中で、企業のCSR活動の一環として企業の森は取り組まれています。企業の森づくりの取組みは、地球温暖化防止や生物多様性保全の他に社員の環境教育・福利厚生・地域交流を通じた地域社会への貢献、間伐材の利用を通じた新たな環境配慮商品の開発など、さまざまな形で広がりを見せています。

ホテル業一筋で仕事をしてきた畠山さんは、観光地の地元の方へ恩返しをするため、平成25年から長崎市脇岬町にある海岸林にて企業の森づくりをスタートさせました。

HMI 長崎につしょうかん しおかぜ香るおもてなしの森

長崎市にある脇岬海水浴場は日本の海水浴場88選に選ばれています。その脇岬海水浴場の並びにある松林（市有林）は、海岸防災林として昭和55年度から松苗の植栽、防災工、保育等が実施されていましたが、松くい虫の被害により、枯損木が多数発生しました。地域住民の方々の松林再生への強い要望に応えるため、畠山さんは海岸防災林の一部を企業の森として、松林の再生に取り組むことにしました。

ホテルマネジメントインターナショナル株式会社「長崎につしょうかん」、「につしょうかん 新館 梅松鶴」、「につしょうかん 別邸 紅葉亭」は平成25年12月10日に長崎県と協定を結び、現在も企業の森づくりの取組を続けています。

企業の森づくりの取組

地元自治会、長崎市、長崎県と協議を重ね、平成26年3月9日(日)地元自治会、森林ボランティア団体、子ども会、老人会等約250名の方が参加し、抵抗性クロマツの苗木430本、記念植樹のヤブツバキ5本を植栽し、森づくりは始まりました。そしてこの森は、「HMI 長崎にっしょうかん しおかげ香る おもてなしの森」と名付けられました。



平成26年に行われた植樹祭の様子

最初の活動では、支配人と社員の皆さんで、小さな苗木が風に負けないよう防風柵を設置しました。この防風柵は、長崎にっしょうかんの敷地内の竹林整備で伐採された竹を加工したもので、看板枠・名板・防風柵用の杭は、長崎市が山林整備にて間伐した丸太を加工して使用しています。「自分達で作った防風柵が海風からクロマツの苗木を守り、その結果枯れずに育ったのではないか。」と話されました。

その後、年間10日程度支配人自ら社員の方たちと下草刈りやつる切り、防風柵の補修をおこない6年間が経過しました。現在では植栽したクロマツは、3メートルを超えるほどに成長しています。



間伐された丸太を加工した看板

森林整備をすることへの思い

畠山さんに森づくりをすることで変わったことはありましたかと尋ねてみると、「森林整備をやっていくにつれて、心境の変化か、仕事に追われる時間が減ったように感じるようになりました。何もない砂地から緑あふれる森に変化していくことに大変ではあったが、やりがいを感じ、少しずつ成長する姿を見るのが楽しかった。」また、社員の方も「近くを通るとどうしても見に来てしまう。」と話されました。自分たちが育てた森への思いは特別のようです。



自ら下草刈りをしている畠山さん

未来の森

6年間の育林活動でどういった森にしていきたいですかと尋ねると「他の企業が企業の森に興味・関心を持ってもらうよう一つの事例として今後も活動を続けていき、また地域の方々や子ども達に喜んでいただけるように整備していきたい。」と話されました。この森が地域を巻き込んで成長するのが楽しみです。



6年間手入れをして成長したクロマツ

(NPO 法人地域循環研究所)

特用林産物ハランについての取組み（県央）

ハランの生産目標

ハラン栽培は、林業の長伐期優良大径材生産を目標とした中で、短期収入源として位置づけられ、間伐後の人工林の林床を活用して行われます。

新ながさき農林業・農山村活性化計画において、長崎・県央地域でハラン生産目標枚数が設定されており、平成30年度は目標53万枚に対し、実績が約48万枚に留まりました。令和元年度目標58万枚の達成、生産者の所得向上に向けて現在取り組んでいます。

ハラン生産規模調査の実施

普及班では、ハラン栽培を行っている方を対象に生産規模等の調査を実施しています。

東彼林業研究会の共同圃場の生産規模は把握できていますが、会員個人の圃場については会員同士でも全く不明の状況でした。また、40名の会員のうち出荷実績があるのは20名程度であり、残り20名がハラン栽培をしていない、若しくは栽培しているが出荷していない状況です。個人圃場の生産規模調査と併せて、出荷できない理由を把握し、出荷に向けた指導を行っています。

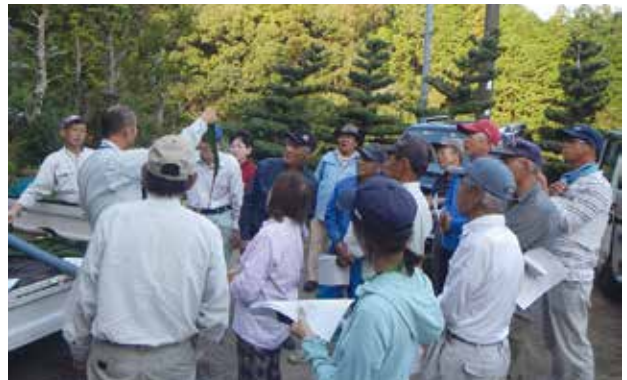


個人圃場での意見交換

目揃え会の開催

東彼林業研究会では、ハランの品質を向上させ売り先の信頼を得るために毎年ハランの目揃え会を実施しており、今年は10月22日に行われました。各ハランの斑の入り方による種類の判別、出荷の可否の徹底などが出荷先の市場やその先の生花店を考えて話し合われました。

当日は、目揃え会と併せて、会員同士による個人のハラン圃場の視察、改良したハラン洗浄機の検討会がありました。これまで他の会員の圃場を見ることはほとんどなく、管理方法等について意見交換が行われました。改良した洗浄機の検討会では、現状の洗浄機のブラシ部分等を改良した試作品の洗浄状況を見てもらった結果、前よりも作業効率の向上や作業負担が軽減するなら購入したいという会員もいました。



ハランの目揃え会

今後の取組み

ハランの生産枚数増加に向けて、未出荷会員への出荷に向けた指導や、栽培・生産に関する問題を解消し、ハラン生産者の収入が向上するように取り組んでいきます。

（県央振興局 林業課 普及班）

秋の森林環境体験学習（南島原市）



9月28日（土）南島原市みんなの森守（もりもり）協議会の主催のもと、西有家町上原のイオン財団の森に地元の親子15組30名が集まり、体験活動が行われました。

はじめに、「漢字の成り立ちから森林の働きを学ぼう！」をテーマに森林学習が行われ、わかりやすく、森林の大切さについて学ぶことができたようです。

には、ここで炊いた栗ご飯と豚汁がふるまわれ、森林の恵みを感じながら、秋のひとときを満喫したようです。



森林学習の様子



栗拾いに取り組む親子



昼食に栗ご飯と豚汁

その後、秋の名物である栗拾い体験や、この森林にある竹林を整備したときに伐採した竹を使ってマイ箸とお椀を作りました。男の子からは竹を剣の形に作ってほしいとのリクエストが多く、紙やすりで磨いたマイ剣に、とても嬉しそうでした。最後

（島原振興局 林務課）

鶏知中学校総合学習「対馬の未来を考える」



対馬の森林をテーマに

令和元年10月29日（火曜日）に「対馬の未来を考える」という授業の一環として、対馬市立鶏知中学校の3年生3名が対馬振興局林業課を訪れました。

この「対馬の未来を考える」という授業は、興味を持ったテーマについて生徒自らが課題や解決策を提案し、専門家の話を聞いて検証するというもので、対馬の森林資源の有効活用や森林の保全といった視点で森林・林業をテーマとして選択した生徒たちに説明を行ないました。

自分たちにできることは？

森林の役割や対馬の林業の概要について、説明をしたところ、生徒たちは始終真剣な表情で耳を傾けていました。最後に質疑応答の時間を設けると、「対馬の山に残されている木材を、しいたけの原木に利用することはできますか？」、「山を守る上で、困っていることは何ですか？」、「自分たちにできることは何かありますか？」など森林・林業についての専門的事項や、自分た

ちも森林づくりに協力したいといった内容の質問があり、対馬の森林・林業を良くしていきたいという気持ちを強く感じられました。



説明の様子

次代を担う子供たちに

次代を担う子供たちに森林・林業の現状や課題を知ってもらうことは大切です。これからもこのような活動を通じて、子供たちにもっと森林・林業への理解を深めてもらえるように取り組んでいきたいと考えています。

（対馬振興局林業課）

— 林業団体情報 —

令和元年度 高校生等の林業就業促進支援事業 林業の仕事でもいいかな ～Part1～



10月28日、諫早市富川地区の大山共有林内にて県立諫早農業高校環境創造科の生徒38人を対象に、令和元年度高校生等の林業就業支援事業が実施されました。この事業は、国と県の森林環境税の補助を受けています。

長崎南部森林組合 諫早支所の熟練した作業員さんたちの指導で、高性能林業機械の操作やチェーンソーによる玉切り作業を体験しました。

労働安全衛生講座

山仕事は危険がつきものですが、最初に長崎南部森林組合諫早支所の林所長による森林作業における労働安全衛生講座がひらかれました。

特に危険を伴うチェーンソー伐採については、事故例を紹介し安全作業について詳しく説明されました。

班ごとに実習開始

その後、生徒をチェーンソー班・機械操作班の計4班に分け、各班に指導者2名、監視1名を配置し実習を行いました。立木のチェーンソー伐倒は危険性を伴うので、模範演で専門作業員が指差し呼称、受け口切り、笛による合図などを行い、遠巻きに伐倒作業を見学しました。

チェーンソーによる玉切り作業では、下半身を守るチャップスを付け、始動、刃の当て方、安全弁の操作、切り方を一人ひとり丁寧に指導しました。授業でチェーンソーの

扱い方は習ったものの、実際に木材を伐るのが初めての生徒ばかりで、途中でチェーンソーの歯が木材に噛み込みストップする生徒も数人いました。

2年生の女子生徒4名は始動に苦労している様子でしたが、いざ始動するとエンジン音を高らかに響かせて玉切りしました。

林業現場も機械化が進み、作業効率もオペレーターの腕次第で、収益に大きく影響します。生徒はプロセッサに乗り込み機械操作も体験しました。木材を持ちあげて寸法通り玉切り作業。慣れてくると思わず笑顔も出ました。

スイングヤーダは、今ではリモコンで操作を行います。玉掛け作業は大変ですが、木材を引っ張り上げる作業はニコニコしながらリモコン操作です。(次号に続く)



研修の様子

(長崎県林業研究グループ連絡協議会)
～ Part2 は1月号に掲載予定です～

林業の時間軸を変える特定母樹！

はじめに

スギ、ヒノキの育種品種は、昭和29年度から始まった精英樹選抜育種事業により国、県の試験機関が協力して開発したものです（第一世代）。現在の県営遠目採穂採種園を構成している母樹がこれに当たります。

これらの自然交配で得られた種子から育てられた苗（第二世代）が県内の造林用苗木に用いられてきました。更に花粉症対策等の社会的要請により、この第一世代品種の中から少花粉の特性を持つ系統を選抜しスギ、ヒノキ少花粉品種として供給が始まりました。

また、第一世代の優良品種の交配で得られた第二世代の中で材積量と剛性に優れたものをエリートツリーとして選抜し、更にそのグループから、成長や雄花着花量のより厳しい基準をクリアしたものが「特定母樹」として認定されています。

他に第一世代の中から特定母樹の基準に合致したのも特定母樹として認定されたものがあります。

九州育種区ではスギ39系統、ヒノキ1系統が特定母樹として認定されています。

試験概要

スギ特定母樹に関する試験（戦略的プロ）地を平成31年3月に大村市中岳に設置しました。植栽したスギ特定母樹コンテナ苗は表1のとおりとなります。

面積0.28ha、植栽密度1,800本/haで、品種毎の成長調査と、下刈り期間の縮減の可能性、成長に影響を与える微地形の要因解析を通じて、低コスト育林の体系化のために調査を行っています。中でも九育2-203号は九州育種場内において、5年生にして樹高8.5mを超え、林業の時間軸を変えるとまで言われる品種です（写真1）。

特定母樹名	育種品種名	植栽本数	在来材積比 (倍)	備考
特定28-30	県西白杵4号	57	1.7	
特定25-42	高岡署1号	57	1.6	
特定28-29	県児湯2号	54	1.5	
特定25-43	県始良20号	60	1.6	
特定29-52	九育2-203号	59	2.3	エリートツリー由来
特定30-33	県八女6号	52	1.7	
特定25-40	県佐伯6号	50	1.4	
特定25-48	九育2-139号	18	1.9	エリートツリー由来

表1 植栽したスギ特定母樹一覧



写真1 5年生の九育2-203号の成長（中央部）

最後に

スギ特定母樹の初期成長については、現地適応性を数多く確認する必要があると考えています。県内での本格的な苗の生産はしばらく時間が必要ですが、数本~数十本単位でも試験的に植栽してみたいと思われる方がいましたら農林技術開発センター森林研究部門（TEL：0957-26-4292）にお知らせ下さい。

試験苗の提供と共に、植栽後の継続調査に協力いただき、特定母樹の有用性について様々な視点から検討させていただければと思います。要望の多いヒノキについては特定母樹が1系統しかないため苗木の調達そのものが困難な状況ですが、入手次第同様に試験したいと考えています。

（農林技術開発センター）

紹介コーナー Viriditas/ ヴィリディタス



Viriditas/ ヴィリディタスは外海地区の工房で、一点もののペンを手作りしているお店です。制作するペンは長崎県産材が多く使われており、樺や檜、楠や桜など種類も様々です。これらの材は沿道樹木の伐採時や、所有する山から入手し、自家乾燥させて使用されています。木目の美しい世界の銘木や、色彩豊かなアクリル製のペンも制作されていますので、是非HPにて美しいペンの世界をご覧ください。

また、現在ペンの材料として柑橘類の木材を探しておられます。ご提供いただける方は左記連絡先までご連絡ください。



Viriditas/ ヴィリディタス

電話 : 050-7122-7726

営業時間 : 12時~19時 定休日 : 土日祝

●公式HP

<https://www.viriditas.design/>

●直販サイト

稀少木の手作りペン

Viriditas/ ヴィリディタス

<https://shop.viriditas.jp/>

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和元年 11月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	17,900	多い	普通	普通
	16~18	小曲り	16,400	多い	普通	普通
	20~22	直	17,000	多い	普通	普通
	20~22	小曲り	15,500	多い	普通	普通

【スギ】

令和元年 11月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	13,000	少ない	多い	多い
	18~22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24~26	直	13,500	少ない	多い	多い
	24~26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

「秋の緑の募金活動」 in Lovefes (ラブフェス) 2019



(公社)長崎県緑化推進協会(以下「緑化推進協会」という。)は、昭和25年に長崎県緑化推進委員会として発足し、緑化推進運動として「緑の羽根募金」を推進してきました。平成7年10月に上記の名称となり、植樹活動や緑化活動の助成、また緑の少年団活動への支援を行っています。

毎年開催されているLovefes(ラブフェス)では、緑の募金をPRし、緑化推進及び森林整備の大切さを周知することを目的として、緑の募金活動を行いました。

緑の募金

緑の募金は、植樹や間伐等国内の森林整備の他、震災で被災した方々への支援、子ども達への森林環境教育等様々なことに活用されています。

当協議会では、今年も緑の募金に協力していただいた方に、アザレアやビオラ、ナデシコ等の花苗や長崎ひのきのコースター、紅葉のネクタイピン等の配布、毎年好評の焦がし絵体験を実施しました。また、緑化推進及び森林整備の大切さを周知するため、パネルの展示やチラシの配布も行いました。

焦がし絵体験

焦がし絵体験は電熱ペンを使用し素材を焦がすことで、イラストや文字等の模様を表現するものです。ツバキの木にそれぞれ好きな絵を描く焦がし絵体験では、幼児から大人まで色んな方がオリジナリティー溢れる作品づくりに熱中し、両日共に大盛況



焦がし絵体験の様子

を迎えました。

最後に

今回のイベントでは、初めて参加するという親子が多かったのですが、来場者の中には毎年参加しているという常連の方もおり、Lovefesに来られたたくさんの方に緑の募金をPRすることができました。

『植える緑化』から『使う緑化』へ ~ つかって そだてる げんきな森~ をスローガンに今後も緑化推進協会では募金活動を行い、緑豊かな郷土づくりのためのお手伝いをしていきます。

(NPO 法人地域循環研究所)

長崎の林業 12月号 第771号
編集・発行 長崎県林政課
住所:長崎県長崎市尾上町3番1号
電話:095-895-2988
ファクシミリ:095-895-2596
メールアドレス:
s07090@pref.nagasaki.lg.jp